

「とやまの未来創生戦略(仮称)」の基本的な考え方(案)

ねらい

人口減少を克服し、富山県の自然、文化・産業など、各地域の特色・強みを活かした持続可能で活力ある未来を創造する

現
状
課
題

- ◆1998(平成10)年をピークに人口は年々減少
- ◆将来も人口の減少は継続

1998年 112.6万人 ⇒ 2014年 107.0万人 ⇒ 2040年 82.0万人
(16年間で5%減少) ※日本創成会議試算

戦
略
の
方
向
性

人口減少自体への対応

人口減少社会への適応

自然増

結婚・出産
の希望実現
のサポート

社会増

雇用の創出、
県外からの
移住促進

生産性向上

女性・高齢者など
多様な人材の
確保と労働生産
性の向上

地域力アップ

地域の基盤
強化・魅力
向上

策
定
の
ポ
イ
ン
ト

■ ポイント① 県民の知恵とパワーを結集

- 国に先駆けて設置した「まちの未来創造会議」の報告等をもとに検討
- 市町村、各界の代表や有識者からなる「とやま未来創造県民会議」で議論

■ ポイント② 新幹線戦略の取組みをさらに深化

- 「新幹線戦略とやま県民会議」での議論の方向に対応した各般の施策の実施状況、課題を検証しながら、「とやま未来創造県民会議」で議論し戦略策定

■ ポイント③ 富山県の「良さ」「強み」を最大限活かす

- 本県の自然、産業、交通基盤(陸海空)、衣食住、文化、人を最大限に発揮
- 環日本海・アジア地域の拠点として、アジア地域等のエネルギーを取り込む

■ ポイント④ 多様な人材確保、生産性向上・産業高度化を図る

- 生産年齢人口の減少を見据え、女性や高齢者等の多様な人材を確保
- さらに、生産性の向上、産業の高度化を図る産業政策を積極的に展開

■ ポイント⑤ 先駆的な富山モデルをさらに磨き上げ

- 富山型デイサービスなど、全国モデルとなる取組みを積極的に推進
- 最先端ものづくり、世界で最も美しい富山湾の活用等の先駆的事業を拡充

■ ポイント⑥ 県全体がバランスのとれた発展をめざす

- 県民会議の地域部会(「新川」「富山」「県西部」)で地域特性を考慮して議論
- 「県と市町村の地方創生連絡会議」で総合戦略等について密接に連携

■ ポイント⑦ 連携と協働による相乗効果で元気を創造

- 自治体同士の政策連携、民間等との協働を強化
- 連携・協働による掛け算効果で産業・地域を活性化し、「元気とやま」を創造

■ ポイント⑧ 総合計画や他の計画等との整合性を確保

- 「新・元気とやま創造計画」に沿って地方創生・人口減少対策の施策を深化
- 庁内組織「とやま未来創生推進本部」で各ビジョンも検証しながら戦略策定